



地域散策から始まった防災を考える 児童館の取組、学校を含めた勢理客 地域全体の防災避難訓練の10年

沖縄県浦添市 一般社団法人まちづくりうらそえ
(浦添市立森の子児童センター指定管理者) 代表理事 大城 喜江子



1 浦添市の紹介

うらそえ
浦添市は県都那覇市に隣接する地域であり、人口11万5,287人、平均年齢43.06歳の比較的若い市です。市内には小学校11校、中学校5校あり、11小学校校区に11の児童館、中学校区にはCSW（コミュニティソーシャルワーカー）が配置されており、「沖縄一福祉の街うらそえ」を目指している浦添市です。

2 わが街勢理客

じっちゃん
当団体の運営する森の子児童センターは勢理客地域にあり、浦添市でも那覇市に一番近い地域です。人口4,503人、2,348世帯が居住しています。400年の歴史を有する国選択無形文化財の勢理客獅子舞があり、十五夜（旧暦8月15日）の祭りには獅子舞や伝統芸能が披露され、地域全体が賑わう一日になります。

3 防災の活動の始まり

平成26年（2014年）、日本NPOセンターの「どんどこプロジェクト」の助成金を頂き、中学生十数人が車いす体験や手話体験、車いすバスケット等の福祉体験を行いました。更にくまなく丁寧に地域を歩く、散策調査をした結果「勢理客地域避難マップ」が創られ、その活動を行った中学生から「普段の地域の繋がりが大事でしょう。地域あげての避難訓練が必要」の声があがりました。住んで良かったと思える地域、帰る場所があると思える地域、所属感、繋がりが持てる地域づくりを目指す取り組みにしました。一人の意見の大事さ、子ども（中学生）の意見でも社会が動くんだということを実感できる学びと、活動体験にすることを考えました。

あ じゃかわ
那覇市と浦添市の境い目にある安謝川、海拔2m地域であり、保育園が点在し多くの市民が

居住しており、また、1km以内で海に直結しているため、地震があつて津波があつた時の危険地域になっています。坂の多いこの地域、避難所である神森小学校に園児や住民が、どのように避難してくるかが、課題となっています。

4 これまでの取組

中学生の発した言葉を拾いあげ、平成27年（2015年）第1回目の避難訓練を中学生が企画しました。中学生団体のティーンズクラブ（こども実行委員）が中心になり、避難訓練に関するチラシを作り、2,000件のお宅にポスティングと避難訓練参加の呼びかけをすること、大人実行委員の皆さんには、行政への協力依頼と避難訓練当日の運営をすることをティーンズクラブにお願いされました。

初めて地域全体で行う避難訓練の開催に、大人、こどもの実行委員会の会議が13回持たれました。安否確認が必要や、備蓄米の配布はどうする、避難してきたときの会場はどうする、避難場所の体育館の鍵は誰が持つておくのか等々、色々議論されました。交通安全誘導係の獅子舞保存会の皆さん、受付係のボランティア高校生と防火女性クラブの皆さんが協力しました。保育園の園児、地域の皆さんが当日は450人余が参加していました。今日まで10年の間、マンネリ化した時期やコロナもありましたが、今なお継続している訓練です。

5 大人の学び

避難訓練のみでなく防災について毎年多くの学びの場をつくりました。避難してきたときにその場がどれだけ混乱するかの体験「避難所ハグ」、災害派遣医療チーム「DMAT」の米盛先生の「災害時の初期対応」のお話し、熊本県益城町広安小学校校長井出先生をお招きして「校長先生の避難所運営」災害時の学校の授業再開

と避難所運営のお話しをして頂きました。

浦添市全域に防災を考える取組として「どうする、どうなる、どうしたい、勢理客地域円卓会議」他を行っています。

6 こどもたちの学び

小中学生の子どもたちを防災キッズと呼んでいます。防災を防祭として行った時、綿あめ屋さんに参加して頂きました。不足の生活の中で、食事は勿論ですが、甘味物が心を潤すことを学んだと思います。また名護市の防災研修センターでは、震度7の地震体験、水圧体験等々、普段感じたことのない体験に、協力するって大事の声がありました。更に地域の自動車学校の協力で、その敷地内でテント泊と車中泊体験を行いました。

普段は中々入れない敷地での体験、こどもたちには遊びのように思えたかも知れませんが、避難所として体育館だけでは足りない場合の第2の避難場所になり得ることを全員で体験しました。これまで児童センターのプレイルームで行われていた防災キャンプが、小学校の校舎の中で行えるようになっていきます。家に帰れない状態を想定しての取組で、明かりのない、ガスの使えない、大人が一切口出しをしない、自分

たちで考えて行く不足いっぱい防災キャンプを近隣学童のこども達も一緒に行っています。

7 まとめ

防災避難訓練等々を10年継続して行っていることで、地域住民の意識が高まり、色々な意見とアイデアが出されます。災害時に一時的に避難できそうな建物調査や物品提供協力店舗調査や、また、実行委員団体に保管されている物品調査を行いました。

今年の避難訓練は、その調査を本にこども園から大鍋とガス窯、学童からこども用包丁他を持ち寄って、防災キッズのこどもたちが豚汁の炊出し体験を行い、大人たちに振舞いました。こどもたちの力も地域で役立つことの体験、みんなの力を合わせて行える共助、体験を通して自分自身の身を守る自助をこどもたちは学んでいます。

日本NPOセンターの助成金を頂いて継続できているこの事業ですが、今年逃げ地図を作りました。近じか下敷きにして小学校全生徒に配布します。児童館、地域、学校、多くの実行委員のこれまでの活動を基盤に、地域でこどもたちを見守る体制ができていることに、継続が力になることを実証しているように思えます。



防災キッズ集合



防災キッズブック



暗いなかでの
防災キャンプ食事づくり

